



伝統行事の茶摘みをする蘇南高校の生徒たち

蘇南の伝統茶摘み体験

1年生70人新芽8キロ収穫

茶の産地として知られる南木曾町の蘇南高校(小幡正樹校長)で18日、茶摘みが行われた。10年以上続く伝統で、1年生約70人が敷地内の斜面にある茶畑約2㍎で、ヤブキタの葉約8キロを摘んだ。

「茶畑を管理している事務員兼校舎管理担当の下浦紀夫さん(60)から、枝の先端部分の「一芯三葉」を摘むことを聞いた後、生徒たちは緑色の新芽を次々に摘み取り、ビニール袋に入れた。大桑中学校出身の篠原拓真君(15)は「摘んでいるうちに夢中になる。蘇南高でしか体験できない良い行事だと思う」と話していた。摘み取った葉は町内の製茶工場で加工し、来客に提供する。生徒が試飲する機会も設ける予定だ。

(細野はるか)

茶畑を管理している事務員兼校舎管理担当の下浦紀夫さん(60)から、枝の先端部分の「一芯三葉」を摘むことを聞いた後、生徒たちは緑色の新芽を次々に摘み取り、ビニール袋に入れた。大桑中学校出身の篠原拓真君(15)は「摘んでいるうちに夢中になる。蘇南高でしか体験できない